

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果
作成日

平成24年 6月 1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774500835		
法人名	社会福祉法人 アムリタ		
事業所名	グループホーム アムリタ		
サービス種類	認知症対応型(予防)共同生活介護		
所在地	大阪府泉佐野市長滝842番地1		
自己評価作成日	平成24年5月31日	評価結果市町村受理日	平成24年7月25日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 カロア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘4-4-33
訪問調査日	平成24年 6月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当ホームは、介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)、デイサービスセンター、生活支援ハウス、ヘルパーステーション、附属診療所を併設しております。また、母体の社会医療法人栄公会では、病院、介護老人保健施設、認知症高齢者グループホーム、訪問看護ステーション、福祉用具貸与事業所、居宅介護支援事業所を運営しており、それぞれが連携することにより、当ホームホームでの入居中におけるケアはもとより、新入居や退居に際してもグループ全体で支援しています。ホームの運営においては、職員が意見を持ち寄り、また、入居者やご家族の希望を踏まえて年間事業計画を策定し、月次で進捗管理を行い年次末には報告書をまとめ、翌年の運営に活かす努力をしています。地域密着型サービスに位置付けられてからは、運営推進会議の場を活用するなどし、それまで以上に地元自治会との交流を深めています。日常の援助においては、少人数というグループホームの特性を活かし、個別外出の機会を設けるなど個々にニーズを大切にしています。なお、当ホームが中心となり「泉佐野市地域密着型サービス事業者連絡協議会」を設立し、市内の地域密着サービス事業者全体の質向上のためのお手伝いをしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームアムリタは地域密着型サービス提供複合施設の3階に位置しており、デイサービスの利用者や生活支援ハウス・特別養護老人ホームの入居者との交流もあります。「住み慣れた地域や家庭での心豊かな生活を支援します」を理念として掲げ実践されています。また、施設も建物全体が地域住民の避難場所にもなっており、地域にも貢献されていました。当ホームを中心とし地域密着型サービス事業者連絡協議会を立ち上げ、泉佐野市内の地域密着サービスの質の向上にも中心的存在として努力されており、地域福祉全体の質の向上にも尽くしておられました。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念、基本方針を踏まえた上で、グループホーム特性を考慮した独自の理念を掲げ、その理念を念頭に年次事業計画を策定し、管理者と職員は日々の業務の中で理念を共有し実践むにむけて取り組んでいる。	ホーム独自の理念「家庭的な雰囲気・居心地のいい空間・その人の可能性を見出そう・地域でイキイキ」を掲げ共有していました。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	アムリタ開設当初より、町内会入会についての要請を継続した結果、23年度より、法人会員として入会を認められる。また地域行事や地域の公民館で開催される講座に参加し地域交流を図っている。なお毎年10月に開催する「アムリタ祭」には地域住民の皆さんに多数参加して頂いている。	地域の講座に参加したり、町の行事に参加するなど積極的に地域と交流を図っていました。H23年から町内会入会を認めてもらうなど一つ一つ積みあげていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	泉佐野市地域密着型サービス事業者連絡協議会に加盟し、協議会を通じて泉佐野市社協地域包括支援センターからの依頼で認知症サポーターの養成講座の講師役を努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催しており、利用者や家族も毎回交替で参加していただき、活発な意見交換を行うとともに、利用者や家族からの改善に向けた意見を全職員に周知し、サービスに活かせるよう取り組んでいる。	家族・利用者・民生委員・地域包括・市の職員（保険課）が参加し2ヶ月に1回開催し意見交換を行い、サービスの向上に活かせるよう取り組まれています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議における行政関係者の参加に加えて、地域包括支援センターが主催しているイベントのチラシをグループホーム内においたり必要に応じて地域包括支援センターや市の職員との情報交換や交流を図っている。	市の職員にも運営推進会議に出席してもらい日頃の活動の内容などを伝え、アドバイスを得たり協力関係を築いておられました。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	複合施設の3階にホームがある為、そこに通じるエレベーターは暗証番号表示の上、電子ロックされている。鍵を掛けない暮らしについて、行動制限廃止並びリスクマネジメントの観点から職員間で話し合いを行っている。また事業所として「身体拘束の排除の取り組み」に関して定めた理念、方針等がある。	身体拘束についてのマニュアルを作成するなど、職員全体で取り組み、定期的な研修も行われ周知徹底されていました。	前回でもありましたが、エレベーターの鍵がオートロックされており、設備面での課題が残ります。今後も引き続き検討されることを期待します。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の人権研修において、高齢者虐待防止を盛り込み、DVD観賞、グループワーク研修を通じて虐待防止について学んでいる。また、日常の介護について振り返る研修を行い、業務においても注意を払っている。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設研修として、権利擁護、成年後見制度の研修を行っている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談の段階から自宅訪問をしたり、希望に応じて担当の介護支援専門員を含めた説明を行い、納得をされてから、書面による説明を経て、契約に移行している。退所時は入居者及び家族が方針を決定するための情報を提供するなど相談にのり、納得の退所をされている。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などにおける日常的な要望の聞き取り、意見箱の設置、運営適正化委員会の連絡先の提示に加えて、運営推進会議において、入居者及び家族が要望や不満を含めた意見を出せるよう進行している。	運営推進会議や家族会では意見や要望が活発に出ており、それを改善へとつなげていました。	
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	月1回のグループホーム会議で意見を聞くとともに、年次の事業計画策定にあたっては職員の意見を聞きながら立案するとともに、担当制で計画を遂行し運営参画意識をもってもらっている。	月に一度、グループホーム会議を行い職員に意見を聞く場を設けるなど対応を行い、職員には担当制で計画を立案し遂行してもらい運営参画意識を持ってもらうよう取り組まれていました。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度における人事考課制度導入により、職員の努力が接遇に反映される仕組みとなっている。また、内部、外部研修参加の機会を設け、職員個々のスキルアップなど向上心に応えている。なお、代表者は近隣ホームの接遇面の情報収集を行い条件整備に努めている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度における人事考課表の活用や個別面接等において職員個々の力量を把握し、個人が目標説明をし、やりがい達成感をもてる機会を与えている。また職員一人ひとりの力量に適した法人内外の研修を受ける機会が確保されている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	泉佐野市地域密着型サービス事業者連絡協議会の会長を務め、中心となってその活動が事業者間の質の向上に繋がるよう進めている。またグループ内の他グループホームとの合同行事実施等、交流を深める取り組みをしている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者が初回面談を行い、対話の機会を設け、本人の思いを汲み取る努力をしている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	待機期間中においても定期的に家族に連絡し、相談に応じるなど関係づくりに努めている。介護者の思い悩んでいることや要望に耳を傾け、質問等に納得するまで説明し、希望に応じ説明時担当の介護支援専門員にも参加してもらっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	安易にホームの入居を進めるのではなく、相談内容を踏まえてニーズを探り、必要に応じて自法人及びグループ法人が運営する各種介護施設、在宅介護サービス並びに他の事業所、公的なサービスなどと連携し、対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のできること、できないことを個別に把握し、入居者主体で達成感を感じていただける支援を心がけている。また入居者と職員の協働作業でおやつづくりや物づくりを行い共に楽しみを共感している。	
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の食事会や家族交流、意見交換会を開催するとともに、日常生活においても医療機関受診など可能な限り家族協力を要請している。また毎月グループホーム新聞を作成、送付し、日常の様子をお知らせし共有している	
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きたい所個別支援では家族に相談、協力していただき、馴染みの場所に出席したりしている。また面会時はゆっくり、お話しができる支援をしている。	職員担当を決め、本人や家族から情報を収集し、行きたいところの個別支援を行い、馴染みの関係が途切れないよう努めていました。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの入居者が支え合える関係を築けるよう配慮し、一人ひとりが孤立しないよう、役割分担などの支援をしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特別養護老人ホームに退去された入居者に対し、介助方法のフォローや相談の支援を行っている。	

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでの行事では行事計画書兼実施記録を記入し、想いや意向を引き出して、次回の企画に活かせるように取り組んでいる。	利用者の表情・感想を大切に、それを記録にまとめ、次回の計画に活かせるよう取り組まれました。また、何気ない会話の中から利用者の思いを聞き把握するなど努力されていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	契約前から情報収集に努め、入居後も本人や家族の会話の中から情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援経過記録を個別に記録し日々観察している。また入居者の心身の変化については早期発見に努め、気づきを申し送るなど、職員全員で情報の共有化を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の都合に応じた日程調整を行い、3ヶ月に1度は家族参加のケアカンファレンスを実施している。職員間ではグループホーム会議時に職員カンファレンスを行い、希望を尊重した介護計画書を作成している。	職員によるケースカンファレンスと家族参加のカンファレンスを行い、より多くの意見を収集しようと努めていました。会議録を残し、3ヶ月ごとの見直しが行われていました。	目標が達成されると次の新しい目標が生まれます。達成される目標を立て、計画の充実を図ることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援計画記録以外にも日々の申し送りにより情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。グループホーム会議においてもケア内容についての話し合いを行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院の医師による受診体制の整備を行うとともに、単独事業所では難しいような比較的規模の大きい行事を全体で企画し、参加できる機会を設けている。またグループ力を活かした各事業所での実習を行い、介護技術を高めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前に活用していた社会資源を把握し、個別外出支援の際に訪問するなど、生活の継続性を尊重している。なお、ホームとしては地域ボランティアや慰問等の受け入れを行い、入居者の楽しみの支援に繋げている。		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前からのかかりつけ医に受診している方、またかかりつけ医の訪問診療を希望されている方もあり、本人や家族と相談の上、受診や往診先を決めている。かかりつけ医のかわりが薄い入居者へは、特養付属診療所や協力病院でフォローしている。</p>	<p>入所以前から通われていたかかりつけ医に行かれていた利用者の方も数名おられ、家族同伴のもと受診されていました。また、かかりつけ医のおられない利用者の方には特養付属の診療所を紹介するなどフォローもされていました。</p>	
31		<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>併設の特別養護老人ホーム並びに付属診療所の看護師の応援体制を整えており、急変時のみならず普段から相談、応援してもらえる関係である。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>本年度においては入院治療が必要な入居者はなかったが、病院への入退院においては必要に応じて医療機関と連携している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居前の説明時にホームの方針を伝えるとともに、入居後は家族交流会や運営推進会議など家族との意見交換の場において方針を繰り返し説明し、理解を得ている。なお、実際に入居者が重度化した場合は、医療機関や他の施設入所サービス事業者など関係機関と連携し、不安を取り除くよう支援している。</p>	<p>入所時に重度化した場合や終末期支援が行えないことを説明し、重度化した場合は併設の特養への入所やその方に応じた支援をしていました。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人全体の研修の一環として、定期的に泉佐野市消防署職員を講師に招き、心肺蘇生等について学んでいる。不参加職員にも資料等により伝達している。</p>		
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域の防災訓練に参加するとともに、建物全体が地域住民の避難所的な位置づけとなっており、地域防災にも貢献している。年2回の避難訓練、また運営推進会議の内容においてグループホームにおける非常災害時対応についてDVDを視聴し、緊急時に適切な対応のできる体制づくりに努めている。</p>	<p>地域の防災訓練にも年一回参加し、年2回避難訓練等を行って、職員の意識付けに努めておられました。また建物全体が地域住民の避難場所にも位置づけられておられました。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>職員は利用者を人生の先輩として尊重し、なじみの関係であっても言葉遣いや対応には誇りやプライバシーを損ねることのないように徹底している。また毎月開催する行動制限廃止会議では職員の接遇、言葉遣いについての話し合いをしている。</p>	<p>定期的な研修を行い、利用者の尊厳を守る為の意識付けをしておられました。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>遠足、外食、慰問、イベントの参加の意向はご自身に決めて頂いている。日常生活において、自己決定が出来る場面を提供している。</p>		
38	15	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な日課はあるが、居室にて過ごしてもらい、活動性の調和を図りながら一人ひとりの思いに配慮している。行事の参加においても希望を尊重し不参加者が出た場合を想定した職員配置を行っている。</p>	<p>外出行事も全員が参加するのではなく、その方の意見を聞き不参加の方を想定した職員の配置を行い、利用者のペースに合わせた支援を行っていました。</p>	
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>職員と一緒に買い物に出掛け、衣服を購入したり、入浴の準備も入居者と職員と一緒にを行い、衣服を選ぶよう支援している。1ヶ月に1度は訪問美容に来てもらい、好みの長さや髪形にってもらっている。馴染みの美容院に出掛ける方もいる。</p>		
40	16	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>買い物、調理、食事片付け等利用者の状況に応じて参加できるように、職員と一緒にしている。また職員も一緒にテーブルで会話を楽しみながら食事をしている。</p>	<p>さりげない排泄介助を心がけ、失禁した場合も他の方に気付かれないよう配慮されていました。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>定期的に血液検査を実施し医師より栄養状態の確認を行ってもらっている。日常においても、同じテーブルで職員が食事するため、1日の食事、水分量の把握ができ、記録している。状態に応じて介助が必要な方は支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>訪問歯科による口腔ケアの指導を行っている方や口腔洗浄剤を使用し食時前後口腔ケアを行っている方、個々の能力に応じた介助、支援をしている。</p>		

43	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表を記入し個々の排泄パターンを理解し、自尊心に配慮した声掛け、誘導をしてる。また、排泄の失敗やパット、リハパンの使用量を減らせる支援をしている。</p>		
44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>個々の排便チェックリスクを作成し排便の状況を把握している。便秘時は腹部マッサージを行い、自然に排便できるように取り組んでいる。便秘薬の使用にいたっては医師に相談している。</p>		
45	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴を週何回と一律に決めるのではなく、本人の希望、家族の意見を確認した上で、できる限り個々の希望に応じた入浴を楽しめる支援を心掛けている。入浴の声掛けにおいてはタイミングや順番に配慮している。</p>	<p>月火木金と週4回の入浴サービスを提供しており、利用者・家族の希望に添った入浴支援をしておられ、入浴のタイミング等にも配慮されておられました。</p>	
46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々の居室の室温管理や照明は1人ひとりの好みに対応している。夜間不眠時は無理に入眠を促さず可能な限り職員と一緒に過ごし安心できるよう支援している。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>定期的な受診や往診時には症状の変化を記録し、アムリタ附属診療所の医師、看護婦に情報提供し、服薬の調整をしている。また1人ひとりの服薬ファイルを作成し、職員は周知している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>定期的にカラオケ体機を取り入れ生活意欲の向上を高めたり、同じフロアにある生活支援ハウスやテラスを活用し歩行訓練を行い運動不足を解消するとともに、気分転換を図っている。また個々の能力を活かした役割ができるように支援している。</p>		

49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>重度化に伴い日常的な外出の機会が減ってきている方もいるが、家族の協力を得て買い物に出掛けたり自宅に一時帰られる方もいる。また希望に応じ公民館で開催されている各種講座に公民館の担当職員の協力を得ながら参加している。</p>	<p>個別支援として、その方の行きたいところの情報を収集し、ご家族の協力を得ながら支援されました。広いベランダがありベンチを置き、野菜や花を植え外気にふれ、気分転換できるよう配慮されていました。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ホームで金銭管理している方にも、使用時は自分で支払いできるように職員が支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>年賀状は毎年本人の直筆となるように支援し、海外で生活している家族もあり、毎年の年賀状を楽しみにされている。また電話による家族や知人と連絡についても援助している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感の作品を展示し、季節感を感じられる工夫をしている。また居心地よく過ごせるよう空調整備により全館温度、湿度管理をおこなっている。</p>	<p>ホール中央には吹き抜けがあり、全体的に窓が大きく、採光もよく開放感のある環境でした。また、広々としたテラスがあり家庭菜園などを楽しむことが出来るように工夫されていました。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関の観葉植物をながめ、水やりをし、独りでのんびりくつろいだり、入居者同士が囲んで話ができるように、リビングにはソファを配置している。またトイレ前には、他者が使用していても座って待てるように、ソファを用意している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた調度品を置いたり、自身の作品を飾ったり、その人の生活習慣に合わせた工夫をしている。なお認知症が重度なため、調度品などを置くことにリスクのある入居者には家族と相談し居室を片付けている方もいる。</p>	<p>採光がよく明るい部屋で、一人ひとりの状態に合わせて家具の持ち込みがされ、写真や作品が飾ってありました。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内の部屋の表示については文字のみならず、絵などによりわかりやすくしている。また、バリアフリーにすることで下肢筋力が低下された方にも自立した生活が送ることができるようになっている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない